

部門紹介コーナー

第8回 一職場一事例活動交流集会

地域連携室 岡田 武

困難を抱えている患者さんと、それに対する対応を医療・介護の現場から報告し、集団で検討する「一職場一事例活動交流集会」は、今回8回目を迎えました（長崎民医連主催）。

職員を始め70数名が参加し、「高齢者の中断患者を訪問診療につなげるまで」の取組や、「介護者との同居での経済困難を理由にデイ利用中止となった」事例など10の演題が、報告されました。その後6名から8名で10のグループに分かれて、しっかりと時間をかけて論議を行いました。参加者からは、「様々な部門・職種からの視点での報告が聞かれて良かった」

「様々な事例が報告され、制度のあり方・弱者への手だての薄さを感じた」「身近なところで、経済的な格差による健康破壊の実態を学ぶ機会となった」等の感想が述べられました。



編集後記

今年の夏は、例年になく猛暑が続いた。その猛暑に負けず、今年のRioのオリンピックでは、日本が過去最多のメダル41個を獲得した。特にレスリングの「最後まであきらめない姿勢」には、私たちの医療活動にも通じるものがあると思う。

昨今の厳しい医療情勢であるが、ともに団結して頑張って乗り越えていきたいものである。（岡田 武）



交通アクセス

長崎バス・二本松口経由ダイヤランド行き「上戸町」バス下車すぐ

救急からリハビリ・在宅まで安心できる病院をめざして
社会医療法人 健友会



上戸町病院

〒850-0953 長崎市上戸町4丁目2-20
TEL 095-879-0705 FAX 095-879-3388

地域連携室
TEL 095-832-5615 FAX 095-832-5616

<http://www.kenyukai.or.jp>

上戸町病院のHPもご覧ください。

上戸町病院 検索



社会医療法人 健友会
上戸町病院

すこやか上戸町

2016.10月発行 第22号 発行元：上戸町病院地域連携室 発行責任者：三島 一幸



ごあいさつ

総合診療科 病棟医長 近藤 慶

上戸町病院の精霊船

「高齢化が進んでいる」と言われますが、それが一番実感できるのは一般病院ではないかと最近強く感じます。当院の入院患者層も年々変化しており、最近では90歳代の方はあたりまえ、100歳を超える方もちらほらとみられます。単純な年齢という意味でもそうですが、特に感じるのは「どんな患者さんか」という質の部分です。最近ではご高齢の方が食欲不振という主訴で入院されることが多く、もしくは肺炎などの急性疾患で入院して、それは治っているのに食事が入らないといったことも多く経験します。これはここ数年で激増しているというのが実感です。食事がとれない原因を探ったり、栄養チームが介入して何とか食事がとれないかをトライしたりするのですが、それで何とか食べられるようになる人もいれば、やはり食べられない人もいます。そのような場合は患者さんや家族の意思、持っている基礎疾患、それまでの経過などを踏まえて相談しながら個別の対応が必要となります。また、たくさんの疾患を同時に抱えている「多疾患併

存状態 (multimorbidity)」の方も増えており、自然と多剤服薬となるため副作用も増えている印象があります。入院のきっかけとなった原因疾患を治療するだけではなく併存疾患も適切にマネジメントする力、服薬の必要性を個別に判断する力が以前にも増して求められています。また認知症の割合も非常に高く、認知症症状や入院後に生じるせん妄に対して医師が適切に対応する必要があります。また看護師などスタッフがその対応に費やす時間も確実に増加しています。全体として単純な年齢ではなく「虚弱 (frail)」な高齢者の総数が増えていることの表れだと思います。これらの患者さんはどうしてもマネジメントに時間がかかるため、完全に急性期病棟だけで適切に対応することは難しく、それを解消するために当院では、今年6月より地域包括ケア病床を一部導入しました。地域包括ケア病床は60日までの入院が可能で、それにより余裕をもって調整していくことが可能となり、昨今の患者層に見合った病棟運営ができるようになったと実

感しています。また、こういった病棟運営の工夫だけではなく、病院の各スタッフの力量も求められています。医師には前述したような内容に対して適切にマネジメントする能力が必要になっており、これは従来の医学教育の中には十分含まれていないものです。新専門医制度は1年延期となりましたが、私たちはこれらに適切に対応できる質の高い医師育成（特に総合診療専門医育成）に力を入れていきます。また医師だけでこれらの対応をするのは不可能なため、看護師、リハビリテーションセラピスト、栄養士、薬剤師、MSWなどの多職種がそれぞれの専門力を発揮できるよう育成し、連携の向上を目指していきます。また虚弱高齢者が増えているからこそ、開業医の先生方、大病院の臓器別専門医の先生方、施設スタッフやケアマネージャーの方々とも情報共有や連携を図りながら、「医療を介してその患者さんやご家族の幸せを手助けすること」を今まで以上に追求していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



シンボルマークの意味 桃色は、平和の象徴の鳩 緑色は、病院を囲む上戸町の自然 赤色は、病院で働く人達の情熱を表しています。2011.5月に病院内で募集し、投票の結果、当選したシンボルマークです。